2022年度「若者×ツナグバ」 活動報告書

団体名：　アミーゴやまぐち

活動名：　高校生、大学生たちの居場所づくり

★　団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

アミーゴやまぐちは、2022 年4月に結成された。構成メンバーは高校生、大学生、社会人。
コロナ禍によって、様々な経験の機会が奪われ、人との関わりを持つ機会が少なかった若者達を対象とした活動。若者たちの生きていく力、地域とつながる力を育み、それぞれが孤立していかないように力を伸ばす機会を提供する。
もともと、高校生の居場所づくりに参加していた若者たちで新たに結成し、
若者が主体的に居場所づくり、またイベントなどを通し地域と若者が関わることで、若者の主体性、さらには人とつながっていく力、生きていく力をのばすことを目的とした団体である。

★　活動内容　（実施日、場所、目的、内容、参加人数等）

★夜の居場所カフェ
日時：毎月第2・4金曜日
　18 時～21 時半
　全 17 日程（コロナ流行などにより予定回数より減）
内容：若者による若者のための居場所カフェ。なのはなハウスという拠点をお借りして、みんなで軽食を食べて会話の場を設けたり、夕食を食べる会も。ボードゲームなどを通じて、参加者同士の交流を深める。参加者の希望により、バレー大会を行うときもあった。
参加人数：各回5人～20人程度

ボードゲームでまったり

カフェのように軽食を食べたり、夕食も食べたり！

5 月 21 日

たんぼラグビーin 吉敷

場所:吉敷地域交流センター

目的:メンバー達が、イベント企画運営によってそれぞれ力を伸ばすこと。また地域交流センターとの協力など、主催企画を通して地域を知り、交流し合う。

内容:地域の方の田んぼをお借りして、そこをラグビー会場とし、たんぼラグビートーナメントを行った。

参加人数:80 名　　（スタッフ 10 名・参加者 30 名・保護者 10 名・観戦者 30 名）

間近で見るたんぼラグビーは迫力満点

同時にフォトコンテストも開催し、その優勝作品

なんと、市議会だよりの表紙に採用していただきました…！

6月 10 日

バーベキュー

場所:なのはなハウス

目的:メンバー間のコミュニケーション促進、仲を深める。

参加人数:18 名

8月 10 日・20 日

自由研究サポート

場所:あっと放課後児童クラブ(山口市児童館)

なのはなクラブ(なのはなハウス)

目的:所属メンバーの得意分野を活かし、夏休み中の小学生、中学生に向け理科実験をテーマとしてイベントを開催。自由研究をサポート

内容:準備していた6つの実験をまず実演し、その後児童達に実験してもらう。

家でも同じように実験できるように実験過程を示したリーフレットも作成・配布。

参加人数:同日合わせて 45 名

児童クラブでの様子、みんな興味津々

実際に子ども達が実験にチャレンジ

なのはなクラブでの様子

10 月 4 日

料理してみよう会

場所：なのはなハウス

目的：一人暮らしのメンバーも多く、生きていく上でとても重要な料理について学ぶ機会として、地域の主婦の方に体に優しい料理の作り方を教えてもらう。

内容：地域の主婦の方の指導のもと、メンバー達で夕食を作る。栄養についても学んだ。

参加人数：6 名（講師１名・メンバー５名）

出汁の取り方から学ぶ

とってもおいしく出来上がりました♥

12 月 17 日・22 日

キャンドルづくり

場所：なのはなクラブ（なのはなハウス）

　　外国にルーツをもつ子　日本語教室（山口大学国際交流館）

参加人数：同日延べ 20 名（メンバー 7 名・子ども 13 名）

目的：企画、実行することで力をのばし、また他団体と協力して行うことで、他団体や地域を深く知るきっかけづくりとする。

内容：青年海外協力隊 OB 会ご協力のもと、外国にルーツを持つ子どもの日本語教室の時間にキャンドルづくりイベントを行った。メンバーが参加する子ども達をサポートしながら、キャンドルづくりをすすめた。

なのはなクラブでの様子

一生懸命混ぜてます！

外国にルーツを持つ子ども達に向けての様子

最後は完成したキャンドルを持ってパシャリ！

1 月 15 日

おせちづくりワークショップ

場所：小郡ふれあいセンター

参加人数：23 名

目的：おせちづくりを通して日本文化の再度学び直し、また地域の親子たちとの交流を深める。また、こども食堂という場を通じて地域を学ぶ。

内容：チラシを通じてワークショップ参加者を集い、小郡みんな食堂のイベントタイムにおせちづくりをメンバーと参加者で協同して行った。小郡みんな食堂の方のご紹介により、おせちづくりの講師をお招きし、とても素敵なおせちを完成させることができた。午前中に行われたこども食堂にも参加し、地域活動を体験する場となった。

おせちづくりワークショップオープニング

じゃこナッツ（田作り）を作っている様子

上手にできてるかな…？　　こんなに素敵なおせちができました！

２月 18 日
ご当地料理自慢大会
場所：なのはなハウス
参加人数：１８名
目的：様々な県出身のメンバーが多いため、それを生かしてご当地料理を地域の子どもたちに振る舞うことに。多様な食の機会の提供。
内容：「広島：お好み焼き、熊本：いきなり団子、福岡：モツ鍋、沖縄：タコライス、香川：冷やしうどん」と５つのブースに分かれ、出店のようになのはなハウスで料理を振る舞う。

熊本メンバー、いきなり団子制作中　　いろんなトッピングがある香川うどんにウキウキ♪

楽しそうに食事をする子どもと若者たち　　モツ鍋がしみている若者たち

★実施に伴う効果（どのような社会貢献ができたか。自らの成長は。）

月二回行った夜間の若者のための居場所づくりだが、回を重ねていくごとに参加者が少しずつ増え、最初は７人で始めた活動だったが、最終的には２５人にまで増やすことができた。イベントからメンバーが増えるというようなこともあった。

活動を続けていくうち、活動について主体者として考えていくメンバーを増やすため、コアメンバーを募ったが、６人ものメンバーが希望してくれた。メンバー内で、団体をどのように発展させていきたいか、ということを積極的に話し合い、そういった話し合いから各メンバーの考えを深める力、チャレンジ力というものを伸ばす機会を提供することができた。

また、上記の居場所づくりと並行して隔月でメンバー企画のもとイベントを主催し、それぞれの持っている力を地域で発揮する機会も設けることができた。５月には、吉敷地域交流センターご協力のもと、話し合いを重ね、地域の方の田んぼをお借りしてたんぼラグビーを開催することができた。吉敷地域交流センターの方々、地域づくり協議会、田んぼを貸してくださった方、また参加してくださった地域の子どもたちや学生の方々など、多様な立場の方々とイベントを通して触れ合うことができたことで、日頃大学など学校の中だけで完結するような狭いコミュニティにいたメンバーにとって、新鮮な機会を提供することができたと感じている。

他にも、放課後児童クラブ・なのはなクラブで行った実験教室は、理系のメンバーが企画し、自身の得意分野を地域に還元したいという発想の元行ったイベントである。夏休みの宿題である自由研究をまだ終わらせていない子にとっては、自分の力で研究に取り組むきっかけづくりができたのではないかなと感じる。また、参加したメンバーたちにとっては、地域の子どもたちを認識する機会となり、また関わってみたいと言うメンバーが多数いた。次なる挑戦を掻き立てるトリガーとなれた。

冬にはクリスマスイベントとして、キャンドルづくりを外国にルーツを持つ子どもたち・なのはなクラブの子どもたちに向けて行うことができ、それぞれの団体さんと接することによって他の地域団体について学ぶことにもつながった。またここでのつながりから、夜間の居場所づくりの時間にその団体さんのイベントを行ってもらったりと、相互の関わり合いが生まれるということも起きた。

居場所やイベントそれぞれの活動から、メンバーたちの仲を深め、チャレンジする力を伸ばすことができたのではないかと感じる。

★苦労した点、今後の課題、発展の方向性など

一番苦労した点としては、学業、仕事と団体活動の両立である。イベント企画時には、その準備や話し合いに時間を割くことが大変だった。また、メンバー全員がイベントを主催する経験がなかったため、手探りで実行し、たくさんの失敗も経験した。また、今年度もコロナウイルスが猛威を振るい、活動内容を何度も変更・休止したり、時期をずらしたりと、思うように活動ができなかった。

今後の課題としては、メンバーそれぞれが自然と「してみたいコト、チャレンジしてみたいコト」を思いつく仕組みづくり・環境づくりが必要であると感じた。

代表、現副代表が今年度で県外へと拠点を変えるため、団体としての活動が来年度以降続くことは難しいかもしれないのだが、この１年での活動を活かしてメンバーそれぞれがこれからも各地域で、自分の力を発揮していってほしい。

★若者×ツナグバへの提言 （改善につながるヒント、要望）

この度は、1年間ご支援くださり本当にありがとうございました。10 月に行われた若ツナフェスタにて、採択された他団体の方々と対面でお会いすることができ、非常に有意義な時間を過ごせたとともに、自団体への活動の活力へと確実に変わったことを実感しました。定例会では、テーマに沿って話し合いを行うことが多かったと思うのですが、さらに自由に、他団体へノウハウを聞く、というような時間があっても良かったかな、と感じました。それぞれの団体ごとに、歴史やグループの仕組みなどまったく違うからこそ、さらにお互いの団体を深く知る場があると、自団体の活動にその知見を活かせるのではないかと思います。また、アドバイザーの方々の活動をさらに深く知る機会もあるとよかったなと思いました。基本的には定例会にてアドバイザーの方と顔を合わせることが多かったですが、そこでアドバイザーさんの方から学ぶミニ講座などもあると面白いのではないかと思いました。